

No. 2883

2018-2019年度

会 長 上野山 栄作

幹 事 嶋田 崇

R広報委員長 菅原 佳典

担当：丸山委員・中村委員



島海碩書

第2640地区

例会日 毎週木曜日 12:30
 例会場 紀州有田商工会議所6F
 事務所 〒649-0304
 有田市箕島33-1
 紀州有田商工会議所2F
 有田ロータリークラブ
 Tel (0737) 82-3128
 Fax (0737) 82-1020
 創 立 昭和34年6月15日
 ホームページ <http://www.aridarc.jp>
 e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



2018-2019年度クラブ方針

Take Action and Enjoy!

行動を起こそう！そして楽しもう！



次回のお知らせ

平成30年9月13日 第2885回

・外部卓話：野崎 恭子 氏

(ロータリーの友委員会 編集長)

・ソング：「それでこそロータリー」

本日のプログラム

平成30年9月6日 第2884回

・外部卓話：藤岡 倫夫 氏 (初島中学校校長)

「現在の教育について」

・ソング：「君が代」「奉仕の理想」

前回の報告 (第2883回例会)

開催日 平成30年8月30日(木)

点 鐘 (上野山(栄)会長)

ゲストの紹介 (川口親睦活動副委員長)

ゲスト：谷脇 良樹 ガバナー補佐

会長の時間 (上野山(栄)会長)

「eスポーツ」

皆様方、先週のロータリーデー地域活性化イベント発表会では、長時間に渡り多数の会員のご協力を頂き有難う御座いました。学生達の発想はとてもの良いものが多く、当初の地元学生に地域愛を植え付けるといふ成果は達成できたと考えます。しかしながら、学生にプレゼンテーションをさせるという難しさを痛感いたしました。最優秀賞を取ったチームは有田の旅行ツアーを企画することで、自分たちの知らない有田の面白い場所を知り、体験して、この経験を同じ学生にもっと広げたいという発想に至り、地元学生向けの体験ツアーを行うべきだと考えたチームでした。どれも面白い企画でしたし、大人が手を加えることで、実現可能になると思います。オレンジ・カフェでみんなの夢を叶えたいと考えた中学一年生のプランは、私の会社で実現できるかな？と真剣に考えてしまいました。今後も学生達とコンタクトを取りながら実現可能性のあるものを60周年の委員会と考えていきたいと思っています。



さて、プレゼンの中で私の知らなかった言葉が出ました。有田市で「eスポーツ甲子園」を年に一度開催してゲームの聖地にするという企画の中で出た「eスポーツ」という言葉、皆さんはご存知でしょうか？総務省が今年の3月に公表した「eスポーツ産業に関する調査研究報告書」によりますと、

eスポーツとはコンピューターゲーム(以降、ゲーム)を用いた競技を指します。ゲームには、PCゲーム、家庭用ゲーム、スマートフォンゲームが含まれます。また、アミューズメント施設に設置された業務用ゲーム機を用いて行われる場合もあると記されています。

1980年頃からコンピューターゲームが誕生して多くの大会が始まったようです。2000年頃からeスポーツという単語ができ、2003年には中国で正式体育種目に指定されています。日本では2015年に一般社団法人 日本eスポーツ協会(JeSPA)が設立されて、現在は東京オリンピックの正式種目にしたいと動いているようです。IOC(国際オリンピック委員会)は、五輪サミットにてeスポーツのオリンピック競技化に向けて検討を行うと発表しています。そして2019年に開催される「いきいき茨城ゆめ国体」では、文化プログラムの枠組みで『ウイニングイレブン』シリーズのeスポーツ大会が開催されることが発表されています。

私的なことを申しますと、スケートボードがスポーツと言えるのかどうか疑問であると同様に、eスポーツが「スポーツ」であるのかどうか、とても複雑な気持ちになります。スポーツという単語を付けられてしまったことにより、既存のスポーツにすり寄らなければならないのは、eスポーツにとっても、既存のスポーツにとっても不幸だと思います。しかし、このスポーツは海外ではかなり稼いでいるプロ集団も存在し、2017年8月に開催された『Dota2』というゲームの世界大会の賞金総額はなんと27億円でした。この複数で行う対戦型ゲームは日本の若者の憧れも高いようです。一方で、ネットを使って、家でも複数人とチームを組んで顔の見えない対戦相手とのゲームが携帯電話で出来ます。これも一種のeスポーツです。夜中にゲーム中毒となり、朝起きられずに学校に行けない中高生の子ども達が増えています。この事実を会員の皆さんもわかっておいて欲しいと思います。私がPTA会長を務める中学でも多くの子ども達がそうになっています。これをスポーツと呼ぶのなら、そのようなところも克服できるガイドラインを引く必要があるのではないのでしょうか？

幹事報告 (嶋田(崇)幹事)

1. 地区より「平成30年7月豪雨」義捐金協力のお礼の文書が届く。
2. 地区より本年度の地区大会の案内が届く。
3. 当クラブから申請のR財団地区補助金がRIより承認された。近日中に振込みあり。
4. 米山学友会(董涛君が会長)より総会の案内が届く。9/29ホテルきらりリゾート関空であり、米山地区委員の橋本さんが出席予定。
5. 9月のロータリーレートは112円/\$。

委員会報告

- *ロータリーデー部会(川口委員長)
創立60周年記念事業ロータリーデー発表会のお礼
- *親睦活動委員会(川口副委員長)
 - ①有田3クラブゴルフコンペ案内
 - ②夜間家族例会の案内
- *R広報委員会(菅原委員長)
本日、ガバナー月信8月号の抜粋版を配布しています。

出席報告 (脇村例会運営委員)

本日の会員数30名
(出席規定免除会員9名)
出席会員数22名
(出席規定免除会員7名)
78. 57%
8/9修正 90. 00% MU:橋本君、成川(雅)君、井上君

ニコニコ箱の報告 (松村SAA)

上野山(栄)君:谷脇G補佐様には、お忙しい中のご出席、誠にありがとうございます。ご意見を賜りますようお願いいたします。先週のロータリーデー発表会では、皆様長時間ご協力ありがとうございました。本日、クラブ協議会よろしくお申し上げます。

嶋田(崇)君:谷脇ガバナー補佐様、本日は御苦勞様です。ご指導を宜しくお願いします。

谷脇ガバナー補佐様:(ニコニコ箱献金いただきました)

川口君:本日のクラブ協議会、宜しくお願い致します。また先週のロータリーデー、皆様のご協力ありがとうございました。

岩橋君:会長はじめ担当の皆様、60周年記念事業、御苦勞さんでした。谷脇ガバナー補佐、クラブ協議会よろしくお祈いします。

上野山(英)君:ガバナー補佐谷脇さん、本日ようこそおいで頂きました。クラブ協議会よろしくお祈いします。ロータリーデー川口部会長さん、ご苦勞様でした。

中村君:ロータリーデーに参加出来なくて申し訳ございませんでした。多額の献金をしておきます。

中元君:谷脇ガバナー補佐様、ご多忙の中、誠にありがとうございます。本日のクラブ協議会よろしくお祈いいたします。

橋爪(誠)君:谷脇ガバナー補佐、ようこそ有田RCへ。本日、よろしくお祈いいたします。

菅原君:本日のクラブ協議会、宜しくお願い致します。

木本君:谷脇ガバナー補佐、ようこそ有田ロータリークラブ

へ。本日のクラブ協議会、宜しくお願い致します。

松村君:私はアクションを通じてエンジョイしたいと思っています。谷脇ガバナー補佐様、今日はありがとうございます。

閉会・点鐘 (上野山(栄)会長)

クラブ協議会

例会後、クラブ協議会が開催され、各委員長による本年度の活動計画を基に意見交換がなされました。

○谷脇G補佐コメント(総評)



各クラブの協議会に出席させていただき、そのクラブの風土、歴史による確固たる取り組みが解ります。特に有田RCはロータリーそのものを歩んでいるクラブであると感じています。委員会の事業方針を拝見して、私自身初めて知ったこともあり、自分なりに勉強させて頂きました。私のクラブもそうですが、ロータリアンの方は話が上手でユーモアを交えてうまく話をしますが、逆に自信過剰になるのか、話を聞くのは苦手なようです。地区の会合などでも人の話をあまり聞かない人も居ますが、有田RCにはそのようなロータリアンは見受けられません。ロータリーとはロータリアンらしい行動が伴わなくてはなりません。

さて、最近どのクラブもメイキャップに訪れる会員が少なくなりました。新しい会員の為に古い会員と一緒にメイキャップに同行する仕組みや、近隣クラブでメイキャップを通じて交流し合う文化が必要だと考えます。

地区ではマイロータリーへの登録を推奨しています。会員の50%以上を目標にしています。有田RCは既に達していますが更なる多くの登録をお願い致します。また、財団・米山の寄付ですが、出来るだけ前期にお願いいたします。

混乱の時期を乗り越え正常化となりました。本年度は第2分区のIMのホストを有田RCがお引き受け頂いています。が、会員の融和を図っていただけるよう、沢山のロータリアンがこの有田の地を訪れてくれることを願っています。

○上野山(栄)会長のコメント

ロータリーにおけるメイキャップを通じての会員交流や寄付文化は大切ですので推奨すべきであります。特に本年度、有田RCに何が必要なのかと考えた時に、本年度は創立60周年の年でもあり、第2分区のIMのホストも行わなければならない。この現状の中、昨年度多数入会頂いた新入会員とベテラン会員がその多忙な事業を通して、密に親睦を図ることが大切であり、本年度の多事業の結果がそれにより生み出されるものと考えています。

是非とも会員皆様のご協力のもと本年度の事業達成に向け取り組んでいきたいと考えます。